FGC NEWS No.1

September 2012

FGC ～Foundation for Global Children～

一般財団法人 世界こども財団

・東日本大震災支援活動

「医療の現場から　～本当の医療支援とは～」

・世界のこどもたちの「あのね」vol.1

目　　次

世界こども財団・・・・・・・・・・・・・2
東日本大震災支援活動・・・・・・・・・・5
ブータン・・・・・・・・・・・・・・・・9
ミャンマー、バングラデシュ・・・・・・11
日本での活動・・・・・・・・・・・・・12
みなさまとできること・・・・・・・・・13
事務局より・・・・・・・・・・・・・・14

一般財団法人 世界こども財団

理事長	土屋 了介	財団法人　がん研究会　理事
専務理事	宮澤 保夫	星槎グループ　会長
常務理事	井上 一	学校法人国際学園　理事長
理事	上田 眞理	NPO 法人健康医療開発機構　常任幹事
理事	佐々木 卓	学校法人国際学園　理事
理事	壇 則行	星槎グループ　本部　副本部長
理事	角木 孝生	社会福祉法人星槎　理事長
監事	久保 光雄	みらいコンサルティング株式会社　代表取締役
監事	堤 淳一	丸の内中央法律事務所　共同代表
評議員	色平 哲郎	佐久総合病院　地域医療部　地域ケア科医長
評議員	加藤 登紀子	歌手
評議員	木内 孝	株式会社イースクエア　代表取締役会長
評議員	清水 竜一	日総工産株式会社　代表取締役社長
評議員	鈴木 雅映子	株式会社 *SUI Associates*　代表取締役
評議員	高橋 謙	ベーカー＆マッケンジー法律事務所
評議員	宮澤 幸子	学校法人国際学園　理事

こどもが心身ともに健やかに育つように

こどもは生まれながらに個性があります。
個性は一人ひとり違います。
健やかに育つように差し伸べる「手」はこどもによって変える必要があります。
人は一人ではなく、ともに生きる必要があります。
差し伸べる「手」も、おとなからこどもへ、だけではなく
こどもからこどもへ、こどもからおとなへもあります。
こどもを支えることは、こどもに大人が教えられることでもあります。
「手」は、教育や医療などあらゆる分野で必要としています。
「手」の差し出し方もいろいろあります。
こどものそばにいる、話を聞く、力で支える、声をかける、資金を出す…
大事なことは、こどもから目を離さないことです。
そして行動することでしょう。
こどもには未来があります。
未来はこどもが支えます。
「世界のこどもたちに、将来の夢と希望を」
志をもったみんなで支えましょう。
未来を作るこどもたちのために、
今、あなたが出来ることから一緒に始めませんか？

理事長　土屋了介

FGC 活動場所

上記以外にも世界各国において医療と教育の環境整備、職業訓練、科学教育の一環としてアマチュア無線を通じた活動を行っています。

活動国・地域

フォークランド、ラオス、イエメン、エチオピア、エリトリア、韓国、サイパン　…他

教育を超えた幅広い問題に取り組み、世界中のこどもの自立を実現したい。

将来を担う人材を育むこと。それはやがて日本と友好関係を結ぶ礎になる。

1972 年の星槎グループ創設以来、「こどもたちは未来の財産。
あらゆるこどもたちがしっかりと育たなければ未来はない。」
という想いを掲げ、教育を中心に、国あるいは行政が
なかなか取り組めていない事業を国に代わって行ってきた
という自負があります。この 40 年を振り返れば、紆余曲折はありましたが、
少しずつ社会的にもその存在価値を認められつつあると実感しています。
しかしながら、すべてのこどもたちが“真の意味で”
社会的に自立するためには、教育だけを語っていては限界があります。
国内においては、例えば医療との関わり、すなわち様々な困難を持つ
こどもたちの特性を無視した教育の在り方を看過できません。
世界に目を転じれば、医療支援が行き届かないために、こどもたちが
満足に生活や成長ができない国々がまだまだたくさんあります。
こどもたちの真の自立のためには、このような数多くの問題に取り組むための
一体化した組織が必要不可欠であるという思いを日々強くしていました。
これが私たちが財団を設立しようと決めた最大の理由です。
また、世界の国々、特に発展途上国と言われる国のこどもたちに対して、
積極的に関わらせていただきたいと思っています。そして、国際社会において
日本の存在感を発揮し、責任を全うしようとするこのような活動を
政治主導ではなく“民間としてできる小さなことから”始めることに意義がある
と考え、その問題提起をしたいという意味合いも含まれています。

設立者　宮澤 保夫

東日本大震災支援活動報告

2011年　3月11日　東日本大震災発生

命を繋ぐ支援物資 → 風評被害に向けて → 教育・医療の再生

世界こども財団では、東日本大震災に伴い、緊急支援活動として行動をしています。

教育環境支援班：
宮澤保夫理事を筆頭に心のケアでも実績のある星槎グループの教職員を筆頭に構成
医療支援班：
東京大学医科学研究所先端医療コミュニケーション社会連携研究部門 上昌広特任教授を中心に東京大学の教授や学生のほか、医師や看護師と連携して構成

教育環境支援班：
カウンセリング／生徒児童、教員、幼稚園教諭、保護者（福島県）　対象
特別支援教育研修会／小学校等（福島県）にて実施
随時授業サポート／磯部小学校、磯部中学校（福島県）　ほか
医療支援班：
放射線説明会／一般市民、教職員、医療関係者　対象
両班合同実施：
健康診断・健康相談／総人数 1,500 名以上

医療支援班メンバー

ある日の早朝、通勤途中に宮澤保夫理事から「子どもの心のケアをしなければ！」と電話が入った。そして、自宅に引き返し、当面の荷物を持ち、すぐ福島に向かった。そして、こどもたちへの支援が始まった。文科省の調査では沿岸部のこども達の心のケアのニーズは高い。特に福島県の沿岸部は地震・津波・原発事故の三重苦。津波により街が崩壊し、現在も仮設住宅での生活を強いられているこどもたちの心理的負担は大きい。しかしながらこどもたちはその生活にも順応してきている。その中でも同じ沿岸部で隣り合う相馬市と南相馬市ではこどもたちの状況は異なるのも現状である。南相馬市では避難区域が解除され、一時帰宅はできるものの、ライフラインの整備もされずに、自宅に帰ることも、自分の学校に通うこともできない。この地域のこどもたちは、仮設住宅と仮設校舎での生活と今後の見通しが立たない不安を抱えているためストレスは計り知れない。私たちはこどもたちへカウンセリングや学習支援を中心とした支援と、先生や保護者などへの教育相談・カウンセリングを通じてこどもを支える大人のケアを行いながら、こどもたちの教育環境を整えてきた。その甲斐あってか、当初心配されたこどもの PTSD も現在は表面化していない。今後の課題として震災から 3 年後にこどもたちがどのような生活状態にあるかである。仮設住宅での生活も 3 年が目安であり、各家庭が自立した生活を強いられる。経済的に恵まれていれば他に移ることも可能だが、そうでなければ取り残されていくことになる。生活環境が大きく変わりそうである。兵庫県の調査では阪神大震災の 3 年後に要配慮児童生徒の数がピークとなっている。様々な支援が恒久的に続くことは考えにくい。であれば残りの 1 年 6 ヶ月で地域の人々が自力で乗り越えていけるような環境作りとそのための支援が今後は必要とされている。

教育支援班　　安部雅昭（星槎大学　特任講師）

医療の現場から…放射線って。

医療支援班　　坪倉正治（南相馬市立総合病院　医師）

震災約１ヶ月後の 2011/4/12 に宮澤保夫理事と一緒に浜通りの支援に入ってから、はや一年半が経ちました。それ以降、世界こども財団医療支援班の一員として活動を続けています。最初は住民の方々対象の放射線の説明会から始まり、健康診断、放射線相談会、相双メディカルの作成などに従事してきました。

小学校で放射線の測定をする坪倉医師

現在、主に行っていることは内部被ばく診療です。
南相馬市立総合病院や相馬中央病院にてホールボディーカウンターと呼ばれる専用の器械を用いて、体の中に取り込んでしまっている放射性物質の量を計測しています。
そしてその結果に基づき、内部被ばくをできるだけ低減するためにはどのようにすれば良いのか、説明し、診療を行っています。

我々の行った検査の結果、福島県で生活する上での内部被ばくはあったとしても**非常に少ない**ことがわかってきました。大量の放射線を浴びた場合、急性の放射線障害と呼ばれる症状を示すことがありますが、今現在の浜通りの放射線量ではそんなことは**起こりえませんし**、今までの診療でもそのような患者さんに遭遇することは**一度もありませんでした**。

今後の内部被ばくのほとんどは、**空気からの放射性物質の吸入ではなく、汚染食品摂取**によります。**作物が作られた場所が問題なのではなく、検査をしっかり受けているかどうかが問題**になります。継続的に食品検査を行い、汚染しているかもしれない食べ物をしっかり避けることが今後の内部被ばく予防に最も有用です。今後も継続的に検査を行い、早期の情報公開、地元の生活に根ざした情報提供を行って行きたいと思っています。

相双メディカル

（株）ロハスメディアと協力し、ロハスメディカル特別号として、
2011 年 6 月号　相双メディカル「正しく怖がろう放射能・放射線」
2012 年 春 相双メディカル「内部被曝を減らしたい」
を発刊し、子どもたちからご高齢の方まで、多くの方にわかりやすい資料として被害地を中心に配布しています。
ご興味のある方は FGC 事務局までご連絡ください。

本当の医療支援とは

病気になってからの治療は大切なこと。
その人の立場になること。病気になる前に健康を守ること。
それも、またとっても大切なこと。

（第3種郵便物認可）　東京新聞

暮らし見つめて

再起へ 下
被災地の医療

住民と健康を守る

「放射性セシウムが体内から検出される市民は、かなり減ってきています」。福島県南相馬市原町区で、市民有志が開いた放射線被ばくに関する説明会。ボランティアで講師を務める坪倉正治医師（三〇）が、集まった三十人に語りかけた。

市域の三分の二が福島第一原発の三十キロ圏内にあり、放射線被ばくへの不安が今なお募る。参加者は、安心への手がかりを求めて耳を傾けた。

坪倉さんは同市立総合病院の非常勤医師。昨夏から市民の内部被ばくを調べ、その数は延べ一万二千人を超えた。説明会では、分かったこと、分からないこと、良いニュース、悪いニュースを率直に伝える。「放射線量の値の下がりが悪い人がいる。多くが家庭菜園の野菜を未検査のまま食べ続けていた」

これまでの検査で、発がんリスクが明らかに上昇すると思われる被ばくは見つかっていない。でも、説明会で「安全だ」と言い切ることはない。それが安心につながらないのを、肌で感じてきたからだ。住民の顔を見ない有識者が遠くから「安全だ」「危険だ」と言い放つことが、不安をより増幅させているとみる。

本来の所属は東大医科学研究所で、専門は血液内科。被災地の医療支援を志願し昨年四月、避難で医師が減った南相馬市に来た。市立病院で外来を受け持つと、患者は皆、放射線被ばくへの不安を口にした。

放射線の問題は詳しくなかったが、勉強しながら患者の疑問に答えた。丁寧な説明は評判となり、市から住民説明会の講師を頼まれた。市民の集会にも出向き、講演数は四十回に上る。

「母乳を赤ちゃんに与えていいですか」。説明会の終わりに、八カ月の子を抱く母親（三二）が聞いた。坪倉さんは「お母さんが汚染された食べ物を口にしないよう気をつければいいと思う」と答えた。被ばくを避ける生活術をこの土地に根付かせるため、「現場で汗をかいていく」覚悟だ。

■ 現場で汗かく医師

福島第一原発事故による放射線被ばくについて、住民の疑問に答える坪倉正治医師＝福島県南相馬市原町区で

昨年十一月初め、千葉県鴨川市の亀田総合病院から南相馬市立総合病院に出向した地域医療専門の原沢慶太郎医師（三二）は、同市鹿島区の仮設の街を一望し、不安に駆られた。多くのお年寄りを含む計二千世帯が身を寄せる「感染症がはやったら、えらいことになる」すぐインフルエンザと肺炎の予防接種を、仮設住宅集会所で行う計画を立案。しかし、相談した市は「集会所での医療行為は認められない」と反応は鈍かった。県が決めた利用項目に医療行為が入っていないというのが理由だった。

さらに必要性を訴えると、今度は「市の医師会は認めないだろう」。仮設住宅に連日通い、住民に予防接種の大切さを啓発。「集会所で接種を受けたい」との総意をまとめ、市の医師会長からは「頑張ってやってほしい」と全面協力を取り付けた。

県内外に協力の輪が広がり、同月二十六日から各仮設住宅で順次、予防接種が始まった。福島県立医大の医師ら八人も応援に駆け付けた。延べ約二千人への接種を成し遂げた。

底冷えする仮設住宅へ往診に通う日々は今も続く。糖尿病の悪化や血圧の上昇、寝たきり状態、心神の失調…。その背景に、悲惨な喪失体験や孤独、失業、老老介護があることが嫌というほど見える。

少ないマンパワーで訪問看護やリハビリ、健康管理の態勢をどう整えていくか、悩みは尽きない。「自分が見ているのは、二十年後のこの国の医療なのではないか」と思いを巡らす。

（この連載は、安藤明夫と林勝が担当しました）

仮設住宅を巡って患者と家族の声に耳を傾け、必要な医療を提供する原沢慶太郎医師＝同市鹿島区で

【東京新聞２０１２/３/14版】

この他、熊本日日新聞／秋田魁新報／信濃毎日新聞／北海道新聞／産経新聞／読売新聞
岩手日報／日本経済新聞／福島民友新聞／朝日新聞／東京新聞／福島民報／中日新聞
中国新聞／河北新報／静岡新聞／下野新聞／四国新聞／沖縄タイムス／建設通信新聞
日刊ゲンダイ／日刊薬業／毎日新聞／北國新聞／山形新聞／住宅新報／スポーツ報知
ワシントンポスト　他多数
に医療支援班（東大医科学研究所　上昌広研究室）の活動について記事が掲載されています。

福島のこどもたちの笑顔のために…

【北の大地 -- 北海道体験ツアー】

2012 年 7 月 24 日～ 8 月 1 日（帯広）
7 月 30 日～ 8 月 7 日（旭川・芦別）
〈参加者〉児童生徒６３名　保護者２名
〈協　力〉（学）国際学園
震災後、思う存分、外で遊べないこどもたち。今回、「ソーセージ作り」「農業」「川遊び」など様々な体験をし、思い出を胸にまた一歩踏み出しました。

参加したこどもの保護者から御礼状

この度は、こども達が大変お世話になりました。8 月 7 日 14 時ちょっと前、無事に郡山駅に到着し、1 週間ぶりに再会することができました。こども達の表情はみんな笑顔で、疲れた様子も見せず元気でした。帰ってきてからもお土産話しを沢山してくれて「とても楽しかった」と言っていました。今回この旅に参加できたことで、話をしていてとても嬉しく思います。こども達にとっては、生涯忘れられない貴重な夏休みになったはずです。この経験を胸に、強くて優しい子に育って欲しいと思います。皆様方には大変感謝しております。本当に素敵な夏休みをありがとうございました。

【第 2 回福島県相馬市サッカー指導者講習会・少年サッカースクール】

2012 年 8 月 4、5 日
〈参加者〉　指導者講習：15 名　小学生：82 名　中学生：26 名
〈協　力〉　神奈川県サッカー協会、（学）国際学園
相馬市内での講習会とサッカースクールは 2011 年 11 月に第 1 回目を行い、今回は 2 回目となります。今回も、神奈川大学、横浜国立大学、神奈川工科大学から学生ボランティアが参加をしてくれました。学生ボランティアにとっても、被災地の現状を学ぶと共にサッカーの指導者になるための貴重な機会となる事を願っています。多くの方のご協力で、相馬のこどもたちのたくさんの笑顔を見ることができました。

【他、サッカー関係イベント】
・相馬のこどもたちを対象にした星槎湘南大磯キャンパスでの合宿

【報徳思想が生まれた小田原の花火鑑賞ツアー】

2012 年 8 月 3 日～ 5 日
〈参加者〉　中村第二小学校に通う児童の家族
〈協　力〉（財）紙守、（社）スペースウェザー協会、（学）国際学園
相馬市教育委員会を通じて、津波被害の大きかった小・中学校の児童・生徒に対して、小田原酒匂川の花火大会への招待企画を行いました。また､花火鑑賞に加え、“手に届く科学の体験”“身体を動かすこと”“人と関わる大切さや楽しさ” を感じてもらおうと、「紙漉き体験」「水ロケットの作成」「夜のかぶと虫取り」を企画しました。
敢えて、ひと昔前に戻るような体験をしながらたくさんの経験をしてもらいました。

参加したこどもの保護者からのメッセージ

仮設に住んでからは外で遊ぶことはありますが、ボールで遊んでも車にぶつかると怒られ、水鉄砲も洗濯ものにかかると怒られ、近所の人達にもあきれられています。親であっても毎日遊びに連れて行けないので、こども達は普段できないことを目一杯させてもらいとてもうれしそうでした。私もとても楽しく過ごさせてもらいました。ありがとうございました。

笑顔は連鎖します。
こどもたちの笑顔がもどるまで私たちはこの活動を続けていきます。

Bhutan ブータン

アシ・ケサン王女ご一家の来日

２０１１年１２月２７日から２０１２年１月６日まで、ブータン王国よりアシ・ケサン王女（現国王の御叔母様）とご家族が来日されました。宮澤保夫理事とブータン王室は 20 年に亘る交流があり、今回の来日時も、公私において信頼と友情を深めました。また、今後の両国間の交流促進、ブータンでの支援活動等について意見交換を行いました。１月４日には、日頃よりお世話になっている皆様をお招きして「アシ・ケサン王女歓迎レセプション」を開催し、来場された多くの方々とご交流いただき、その際に、アシ・ケサン王女より下記の温かいメッセージを頂きました。

アシ・ケサン王女からのメッセージ

HRH アシ・ケサン・ワンモ・ワンチュク王女

こんにちは。

宮澤様ご夫妻、会場の皆様方、本日はこの友人達の集いでご挨拶させていただき光栄です。1995 年に、宮澤様のリーダーシップのもと設立の運びとなった横浜 - ブータン友好協会の開設式のために初めて横浜を訪れたのは、17 年前のことです。日本とブータンの人々の友情を祝うために大勢の皆様方の前に立っていたことが、昨日のように思えます。その当時、日本とブータンの外交が樹立されて９年しか経っていませんでした。2011 年に、私達は日本とブータンの外交関係樹立 25 周年記念を祝いました。現在、両国の関係はもっとも良い状態にあると言えるでしょう。記念行事の一環として、昨年 11 月に、結婚したばかりのブータン国王と王妃が日本を訪問し、私たちの国が日本と特別な関係にあることの重要さを示しました。本日、そのお祝いをここで続けられることができ光栄です。

二国間関係の成熟と成功を祝う一方で、昨年３月に日本を襲った三重の悲劇により、日本の人々が今も苦しんでいることに心を痛めています。日本は巨大地震に襲われただけではなく、それに続いて起こった津波と原子力災害にも耐えなければなりませんでした。私は、災害によるすべての犠牲者と日本の人々のために心からの哀悼の意を伝えたいと思います。昨年 11 月に日本を訪問したブータン国王は、国会で次のように演説しました。「どの国も、国民も、このような悲劇を経験すべきではありません。しかし、仮にこのような不幸からより強く、より大きく立ち上がれる国があるとすれば、それは日本と日本国民です。私はそう確信しています。」

私は、彼と全く同じ考えを持っており、日本の人々がこの悲劇から立ち上がり、より強く、より良い国を築かれることを心から願っています。この恐ろしいニュースを聞いた時、私はショックと深い悲しみを感じました。日本人は、非常に強く、困難に負けない国民であることで知られています。私は、災害の犠牲者を助けるために多くの人々が自発的に手を差し伸べたことを聞き、勇気づけられました。宮澤様や世界こども財団の皆さんは、被災地で被災者の方々のために多大な貢献をされています。心から、皆様方の尽力を称賛します。世界をより良い場所にし、恵まれない人々を助けることができるのは、このような各個人の努力によるものです。この悲劇の出来事は、日本人の内面の強さ、規律正しさや思いやりの心を世界中に知らせることになり、私は日本が力強く復興すると確信しています。

ロイヤルティンプーカレッジ（RTC）短期交換留学プロジェクト

ブータン王国初の私立大学、ロイヤルティンプーカレッジ（RTC）との覚書締結により、第１回短期交換留学プロジェクトがスタートしました。RTC の学生 10 名と引率の教員１名が本財団の支援を受けて来日し、２週間（２月７日～２１日）のプログラムで、日本の社会や文化、テクノロジー、日本語などを学び、日本の学生とも交流しました。

また、仙台・福島を訪問し、東日本大震災の被災地を視察し、立谷 秀清相馬市長から救助捜索チームの派遣、仮設住宅の設置、医療支援やカウンセリング等被災地支援の現状および復興状況について説明を受けました。ブータンは、震災後海外で最も早く支援を表明してくれた国で、参加学生の関心も高く、相馬市の震災復興政策から多くの教訓を学ぶことができたと語っていました。学生たちはとても高い意識を持って来日し、滞在中はあらゆることに興味を持ち、できるだけ多くのことを学ぼうとしていました。日本で得た経験、知識をブータンに持ち帰って活かしたい、という真摯な姿勢が印象的でした。近い将来、彼らは間違いなくブータンのリーダー的存在になり、自国の発展に尽くしてくれるであろうと確信しています。

リトバルスキー氏と OSA 留学生

RTC 留学生認定書授与式

日本の学生と RTC 留学生の意見交換会

星槎高尾キャンパスにて着物体験

大塚製薬勉強会

OSA 留学生と国際学園井上理事長

アシケサン―宮澤星槎奨学金による留学生支援

ブータン王国アシケサン王女と宮澤保夫理事により設立された「アシケサン－宮澤星槎奨学金」第一期奨学生の２名が、７月９日羽田空港に到着しました。同奨学金は、ブータンの若者に日本での教育の機会を与え、両国の理解と友好関係をより深めることを主な目的として設立されました。

キンザン・ゲルチェン（Kinzang Gyeltshen）とペマ・カンドゥ・ワンチュク(Pema Khandhu Wangchuk) は、星槎グループの奥寺スポーツアカデミー（OSA）に入学し、学校の寮に滞在しながら、約２年間日本で学ぶ予定です。彼らは、言葉や文化の違いに戸惑いながらも、新しい環境の中で、出来るだけ多くのことを吸収しようと、熱心に学習し、様々な行事に参加しています。将来はサッカー選手・指導者になりたいと希望している彼らは、日本とブータンを繋ぐ架け橋となる、という強い使命感も持っています。この２年間が、彼らにとっても、日本を学び、成長する貴重な機会となるでしょう。また、私達も彼らを通じて、ブータンについて多くのことを学び、今後の支援活動に繋げていきたいと考えています。

Myanmar ミャンマー

７月７日～ 12 日、ミャンマー連邦共和国（以下ミャンマーという）を訪問した。
ミャンマー最大の都市、ヤンゴンに降り立ち、翌日、首都であるネイピドーに向かった。その距離、330km、人も通れば、犬も歩く、国内唯一の高速道路を走った。ミャンマー政府の高官を訪ね、こどもたちの健康対策の現状を訊いた。以前から要望されていたこどもたちの感染症を防ぐ手洗い石鹸、消毒薬などを届けることを確認し、健康課題について意見を交わした。ミャンマーは、近年の民主化以降、開発計画や経済特別区構想の取り組みが相次ぎ、着実な発展が期待されている。ミャンマー製の商品は、私たちの周囲にも、スーツ、靴などが見られる。今後、経済の発展に伴い、こどもたちの生活環境が改善されることを願う出張であった。現在、ミャンマーは、日本円に換算すると、大学新卒の月給が 6,000 円、外国資本系列会社の役員付アシスタントの月給が 60,000 円、その差 10 倍、露店で買うマンゴが一個 10 円、スーパーマッケットに整然と並ぶマンゴが一個 100 円、その差 10 倍と、貧と富が混在する。また、今年６月、バングラデシュと国境を接する西部ラカイン州で仏教徒とイスラム教徒が対立し、当州全体に非常事態宣言が出た。８月､中国と国境を接するカチン州で､ミャンマーの少数民族と中国との軋轢が報じられ、混沌の中にある。日本はミャンマーに恩を感じる歴史がある。戦後、日本人の戦犯を取ることもなく、最も早く戦後賠償を放棄し、あの食糧難時にお米を届けてくれた国である。仏教の教えを日常に感じ、海抜 800 mの高原に広がる湖や自然地形そのままがプライベートビーチになりそうな景観を持つ国である。その文化と自然､そして豊かな潜在資源に恵まれた地に生きる若者に大きな可能性を見た。　　（八巻 義徳）

◇皆様に「石けん運動」でご協力いただいた石けんを活用させていただきました。
◇寄付した消毒薬は**「ウエルシアホールディングス（株）」「SARAYA（株）」**にご協力いただきました。
皆様のご支援のお蔭で、この活動ができますことを心より感謝申し上げます。

Bangladesh バングラデシュ

１日の食事は２杯のダル（豆のスープ）。日々孤児は増え、何人いるかも名前すらわからないこともあった。そんな孤児院がバングラデシュの東グズラ村にあります。こどもたちは将来「お医者さん」、「先生」など夢をもって毎日生活していますが実際には相応の教育を受ける機会がなく職業を見つけることも難しい。何より明日を生きることが当たり前ではない状況です。アグラサーラ孤児院の自立運営を目指します。縫製工場を設置し、自立運営ができるように㈱矢部プロカッティングと連携して支援をしています。そして、少しでも栄養価の高い食事がとれるように、さらに職業訓練を行い、彼らが自立できる環境の整備に向け活動をしています。

日 本　Japan

経済連携協定（EPA）介護福祉士候補生への支援

星槎グループ・横浜国際福祉専門学校と協働し、平成２０年度来日介護福祉士候補生（インドネシア人）に対し、平成２２年度より、約２年間にわたり介護福祉士国家試験対策を実施してきました。横浜市の介護老人福祉施設で働く６名には、横浜市からの委託を受けて、また、県域の介護老人福祉施設で働く１名には県からの委託を受けて介護福祉士国家試験対策を実施しました。およそ、月に２回、１回あたり４時間～５時間の授業を行い、国家試験に頻出の日本語、及び介護福祉士に必要な知識・技術について授業を展開しました。その結果、平成２４年１月の介護福祉士国家試験では、７名中５名が合格を果たしました。全国平均では３０％台の合格率でしたが、大きく上回る結果となりました。
今後、益々必要性が高まる介護福祉士の養成を支援することにより、日本国内のみならず、海外での介護福祉に関する知識・技術の普及にも努め、高齢者も安心して暮らせ、支え合うことができる社会づくりに貢献することを目指しています。

その他、こんな活動も…

【国内活動】
◆アシケサン王女（ブータン王国）を囲む会
◆ブリュッセル弦楽四重奏団チャリティーコンサート
◆スマナ・バルア博士の若月賞受賞を祝う会
◆霞が関ビルにおいての各種イベント　　ほか
【講演関係】
◆健康医療開発機構シンポジウム
◆スポーツオブハート
◆サンケイリビング主催　保育士支援イベント
◆サマーキャンプ@亀田総合病院　　ほか

スマナ・バルア医師の若月賞受賞を祝う会

和太鼓演奏@霞が関ビル

ブリュッセル弦楽四重奏団チャリティーコンサート

多くの皆さまにご支援いただいています

みなさまとできること

世界の子どもたちの未来づくりのため、皆さまのあたたかい心を募集しています。
財団へのご参加とご協力をお願い申し上げます。

【賛助会員】
個人会員　年会費　6,000 円 / 一口
法人会員　年会費　120,000 円 / 一口

【ご寄付】
金額を問わず、随時受け付けております。
また、ご寄付先を指定することができます。
①ブータン　②ミャンマー
③バングラデシュ　④財団に一任

【お振込先】
ゆうちょ銀行　振替口座
００２４０－１－１１６６８４
（他金融機関からの場合）
ゆうちょ銀行　〇二九（ｾﾞﾛﾆｷｭｳ）店（０２９）
当座　０１１６６８４
口座名：一般財団法人　世界こども財団

※　賛助会員の場合：払込取扱票の通信欄に「会員の種類（個人 or 法人）」と「口数」をご記入ください
※　ご寄付の場合：通信欄に寄付先をご記入ください

ホームページからもご参加いただけます→ http://www.fgc.or.jp/join/entry.php

「寄付モノ」募集中！

寄付金だけでなく、身近なモノで財団の活動をご支援いただくための「寄付モノ」を募集しています。家の中で眠っているモノ、掃除をした時に捨ててしまうようなモノも、ご寄付いただくことで社会貢献につながります。
こどもたちも参加しやすい仕組みとなっています。

◆対象となるモノ◆
●切手・ハガキ（未使用・使用済み可）
●本（文庫、コミック、絵本など）
●洋服（靴下、下着は対象になりません）
●カード類（テレホンカード、クオカード、図書カード、文具券、ビール券など、未使用のものに限ります）

※詳しくはホームページをご覧ください。　→　http://www.fgc.or.jp
世界こども財団事務局
TEL: **0463-71-6046**　メール：**fgc@fgc.or.jp**

「石けん運動」へのご協力、ありがとうございました！

衛生環境が整っていない国では、すり傷から感染症にかかり命をおとしてしまうこどもたちがたくさんいます。
そんなこどもたちを一人でも救いたいと、2011 年 12 月に「石けん運動」をスタートさせました。
衛生環境を整える第一歩として石けんを集めて送り、身体の清潔を保つ習慣を浸透させたいという思いからです。
2012 年 6 月までに、1 万 5000 個を越える石けんをご寄付いただきました。目標数に達したために、現在は募集を締め切っております。石けんはミャンマーに送ることが決まりました。
皆さまからお預かりしたご厚志は、大切にお届けいたします。
多大なるご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。

事務局より

事業活動収支中間報告（2012 年 1 月 1 日～ 2012 年 7 月 31 日）【単位：円】

収入【9,658,000 円】

支出【10,707,955 円】

※上記内訳は、「2012 年度収支中間報告書」に基づき、算出されたものです。
※この他、外貨で $11,102.5 のご寄付をいただいております。

ブータン王国の歴史的建造物が焼失！【緊急募金を行いました】

6 月 24 日 ､ブータンの歴史的建造物で､世界遺産に申請中の寺院｢ワンデュ・ポダン・ゾン」が火災で焼失しました。東日本大震災の直後、ブータン国王は供養祭を挙行されるとともに、小国ながら、いち早く多額の義援金を寄せてくださいました。その 11 月には、国王夫妻が震災後初の来賓として来日し、被災地を訪れました。混乱と混迷の中、私たちに温かいお言葉と大きな力をいただいたことが蘇ります。
ブータンは焼失した寺院「ワンデュ・ポダン・ゾン」の再建を宣言し、今度は私たちがお役に立つ番であると強く思い、ブータン国民の悲しみと寺院再建への思いを共有し、募金活動を行いました。
ご協力賜りました皆さま、本当にありがとうございました。
この募金は 10 月にブータンへお届けする予定でおります。

現場に急行されたワンチュク国王

助成金・補助金採択の報告【2011 年度・2012 年度】2012.8.30 現在　（順不同）

◆稲盛財団　【東日本大震災復興ボランティア助成制度】
◆かめのり財団　【国際交流事業】
◆中央共同募金会　【赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」助成事業】
◆日本郵便　【平成 24 年度年賀寄付金　配分事業】
◆三菱商事　【東日本大震災復興支援助成金】

＊＊ 誠にありがとうございます ＊＊

世界のこどもたちの「あのね」 vol.1

このコーナーでは世界中のこどもたちからのメッセージをお届けします。

これからの未来を担うこどもたちに「みんなから見て大人ってどんな人？」
という質問をしてみました！さて、回答は…？？

～大人のイメージは？～

人に信頼されて
責任をもって
行動できる人

日本（宮城県仙台）高校生

ブレない信念を
持ってる

日本（福島県郡山）高校生

ズルい。かしこい。
つらい。でも強い。

日本（東京都八王子）高校生

たのしい
つまらない
大人

ブータン　15歳

げんき
げんきじゃない

ブータン　15歳

協力：星槎国際高等学校全国生徒会
奥寺スポーツアカデミー留学生

みんなちがって、みんないいっ！

世界の食堂比べ ～バングラデシュ編～

日本のとある学生食堂

バングラデシュのとある食堂

世界のこどもたちに、将来の夢と希望を

2012 年 9 月発行

一般財団法人　世界こども財団

〒 259 – 0111

神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805 – 2（星槎グループ内）

TEL：0463 – 71 – 6046　　FAX：0463 – 60 – 3507

E-mail：fgc@fgc.or.jp

ホームページ：http://www.fgc.or.jp

Facebook：**「世界こども財団」**で検索！

この冊子は「日本郵便」の助成を受け発行しております。